

(様式第 10)

30 岐大病総第 97 号
平成 30 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 根本 匠 殿

開設者名 国立大学法人岐阜大学
学長 森脇 久隆

岐阜大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1
氏 名	国立大学法人岐阜大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人岐阜大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1	電話(058)230-6000
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科 2病理診断科 3リハビリテーション科 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
37床	床	床	床	577床	614床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	348人	60人	369.9人	看 護 補 助 者	42人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	8人	4人	9.4人	理 学 療 法 士	20人	臨床検査技師	51人
薬 剤 師	46人	0人	46人	作 業 療 法 士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	16人	2人	17.5人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	583人	38人	609.9人	臨 床 工 学 士	14人	医療社会事業従事者	7人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	14人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	178人
管理栄養士	13人	1人	13.7人	診 療 放 射 線 技 師	44人	そ の 他 の 職 員	46人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	28人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	34人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	4人	放 射 線 科 専 門 医	19人
小 児 科 専 門 医	19人	脳 神 経 外 科 専 門 医	9人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整 形 外 科 専 門 医	13人
泌 尿 器 科 専 門 医	10人	麻 酔 科 専 門 医	18人
産 婦 人 科 専 門 医	16人	救 急 科 専 門 医	18人
		合 計	214人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (吉田 和弘) 任命年月日 平成29年 2月 1日

平成29年2月に「医療安全管理規定」を改正し、病院長候補者として医療安全管理委員会委員として任命され、平成30年4月に病院長としても医療安全管理業務に携わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	495.2人	8.5人	503.7人
1日当たり平均外来患者数	1302.1人	67.5人	1369.6人
1日当たり平均調剤数	500 剤		
必要医師数	127.0人		
必要歯科医師数	6人		
必要薬剤師数	17人		
必要(准)看護師数	298人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	137.23m ²	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 78.09 m ² [移動式の場合] 台数 7台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 54.63 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	368 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	106 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査装置			
病理検査室	352 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生物顕微鏡、病理診断システム			
病理解剖室	252 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ルーム型遺体保冷库			
研究室	711 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 超低温フリーザー、分析装置、滅菌装置など			
講義室	656 m ²	鉄筋コンクリート	室数	11室	収容定員	427人
図書室	42 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	166,696冊

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	78.6%	逆紹介率	52.6 %
算出根拠	A：紹介患者の数			10,853人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			8,314人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,567人
	D：初診の患者の数			15,785人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中西 敏夫	弁護士法人森川・鈴木法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ 無	1
千田 隆夫	岐阜大学監査室		本学監査室長	有・ 無	3
富田 栄一	岐阜市民病院	○	医療に係る安全管理に識見を有する者	有・ 無	1
松野 正仁	(一社) 岐阜市医師会		医療を受ける者	有・ 無	2
王 志剛	岐阜大学		学長が必要と認める者	有・ 無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 岐阜大学ホームページ (https://www.gifu-u.ac.jp/about/objectives/audit/hospital.html) 岐阜大学医学部附属病院ホームページ (https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/guide/gaibu_kansa.html)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	54
2	筋萎縮性側索硬化症	29	57	特発性拡張型心筋症	13
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	1
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	8	60	再生不良性貧血	20
6	パーキンソン病	80	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	50
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	12
11	重症筋無力症	48	66	IgA 腎症	3
12	先天性筋無力症候群	1	67	多発性嚢胞腎	17
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	52	68	黄色靭帯骨化症	5
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	14	69	後縦靭帯骨化症	50
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	9
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	57
17	多系統萎縮症	19	72	下垂体性ADH分泌異常症	7
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	39	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	25	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	19
23	プリオン病	3	78	下垂体前葉機能低下症	40
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	107
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	16
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	2
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	0
34	神経線維腫症	19	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	25	90	網膜色素変性症	7
36	表皮水疱症	4	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	18	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	9
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	6
40	高安動脈炎	14	95	自己免疫性肝炎	11
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	96
42	結節性多発動脈炎	3	97	潰瘍性大腸炎	179
43	顕微鏡的多発血管炎	21	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	7	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	5	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	177	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	93	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	170	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	21	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	19	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	11	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
222	一次性ネフローゼ症候群	8	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	9
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	6
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	1	300	IgG4関連疾患	4
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	3
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
307 カナバン病	0	319 セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308 進行性白質脳症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309 進行性ミオクローヌステんかん	0	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
310 先天異常症候群	0	322 β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311 先天性三尖弁狭窄症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312 先天性僧帽弁狭窄症	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
313 先天性肺静脈狭窄症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
314 左肺動脈右肺動脈起始症	0	326 大理石骨病	0
315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316 カルニチン回路異常症	0	328 前眼部形成異常	0
317 三頭酵素欠損症	0	329 無虹彩症	0
318 シトリン欠損症	0	330 先天性気管狭窄症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・医療安全対策加算1
・歯科外来診療環境体制加算	・感染防止対策加算1
・特定機能病院入院基本料(一般病棟)(7対1)	・感染防止対策地域連携加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟)(13対1)	・抗菌薬適正使用支援加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科)(基幹型)	・患者サポート体制充実加算
・臨床研修病院入院診療加算(歯科)(単独型又は管理型)	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク分娩管理加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・呼吸ケアチーム加算
・診療録管理体制加算1	・後発医薬品使用体制加算2
・医師事務作業補助体制加算1 25対1	・病棟薬剤業務実施加算1
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・データ提出加算2
・看護職員夜間12対1配置加算1	・入退院支援加算2
・看護補助加算2(精神病棟)(50対1)	・入院時支援加算(入退院支援加算 注7)
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算1
・重症者等療養環境特別加算1	・精神疾患診療体制加算2
・無菌治療室管理加算1	・精神科急性期医師配置加算
・緩和ケア診療加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・精神科応急入院施設管理加算	・救命救急入院料3(注3、注5、注7の加算)
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料1(注2の加算)
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・がん診療連携拠点病院加算	・小児入院医療管理料2(注2の加算)
・栄養サポートチーム加算	・入院時食事療養(I)
	・
	・
	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料 植込型除細動器移行加算	・口腔粘膜処置
・高度難聴指導管理料	・CAD/CAM冠
・糖尿病合併症管理料	・歯科技工加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(皮膚悪性腫瘍切除術)
・がん患者指導管理料イ	・皮膚移植術(死体)
・がん患者指導管理料ロ	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)一次再建及び二次再建
・がん患者指導管理料ハ	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る))
・外来緩和ケア管理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・移植後患者指導管理料 臓器移植後	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・移植後患者指導管理料 造血幹細胞移植後	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算(頭蓋内腫瘍摘出術)
・糖尿病透析予防指導管理料 注1 加算	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来リハビリテーション診療料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・外来放射線照射診療料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)
・ニコチン依存症管理料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・がん治療連携計画策定料	・人工中耳植込術
・がん治療連携管理料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術

・外来がん患者在宅連携指導料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・薬剤管理指導料	・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・医療機器安全管理料1	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・医療機器安全管理料2	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・医療機器安全管理料(歯科)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 一次一次的再建
・歯科治療総合医療管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 一次二次的再建及び二次再建
・持続血糖測定器加算	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経皮的冠動脈形成術
・造血器腫瘍遺伝子検査	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテル
・遺伝学的検査(注に規定する届出に限る。)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・検体検査管理加算(I)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・検体検査管理加算(IV)	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術(植込型心電図記録計移植術)
・遺伝カウンセリング加算	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術(植込型心電図記録計摘出術)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・植込型心電図検査	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・ヘッドアップティルト試験	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・皮下連続式グルコース測定	・補助人工心臓
・長期継続頭蓋内脳波検査	・経皮的動脈遮断術
・神経学的検査	・ダメージコントロール手術
・補聴器適合検査	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ロービジョン検査判断料	・体外衝撃波胆石破碎術
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下肝切除術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)(3、4、5又は6を算定する場合に限る。)
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)併用法	・体外衝撃波膵石破碎術

・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)単独法	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・画像診断管理加算2	・同種死体腎移植術
・ポジトロン断層撮影	・生体腎移植術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・CT撮影及びMRI撮影 3テスラ (第1MRI)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT撮影及びMRI撮影 3テスラ (第2MRI)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る)
・CT撮影及びMRI撮影 1.5テスラ (第3MRI)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・CT撮影及びMRI撮影(64列以上のマルチスライスCT)1台目 第238号 (第3CT室)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・CT撮影及びMRI撮影(16以上64列未満のマルチスライスCT)2台目 (CTシミュレータ室)	・輸血管管理料 I
・CT撮影及びMRI撮影(16以上64列未満のマルチスライスCT)3台目 (血管造影室)	・輸血適正使用加算
・CT撮影及びMRI撮影(64列以上のマルチスライスCT)4台目 (第2CT室)	・貯血式自己血輸血管管理体制加算
・CT撮影及びMRI撮影(64列以上のマルチスライスCT)5台目 (第1CT室)	・自己生体組織接着剤作成術
・冠動脈CT撮影加算(第1CT室(64列)・第2CT室(64列)・第3CT室(64列))	・自己クリオプレシピテート作成術(用手法)
・外傷全身CT加算 (第1CT室(64列)・第2CT室(64列)・第3CT室(64列))	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・大腸CT撮影加算 (第1CT室)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・大腸CT撮影加算 (第2CT室)	・歯周組織再生誘導手術
・大腸CT撮影加算 (第3CT室)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・心臓MRI撮影加算	・歯根端切除手術の注3
・乳房MRI撮影加算(第1MRI室・第MRI室・第3MRI室)	・口腔粘膜血管腫凝固術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・レーザー機器加算
・外来化学療法加算1	・麻酔管理料(I)
・無菌製剤処理料	・麻酔管理料(II)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・放射線治療専任加算(第1リニアック室・第2リニアック室)
・心大血管疾患リハビリテーション料 初期加算	・外来放射線治療加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・高エネルギー放射線治療
・脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算	・1回線量増加加算(高エネルギー放射線治療)
・廃用症候群リハビリテーション料(I)	・1回線量増加加算(強度変調放射線治療)IMRT))
・廃用症候群リハビリテーション料 初期加算	・強度変調放射線治療(IMRT)(第1リニアック室・第2リニアック室)
・運動器リハビリテーション料(I)	・画像誘導放射線治療(IGRT)(第1リニアック室)
・運動器リハビリテーション料 初期加算	・体外照射呼吸性移動対策加算

・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)(第2リニアック室)
・呼吸器リハビリテーション料 初期加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(第1リニアック室)
・がん患者リハビリテーション料	・保険医療機関間の連携による病理診断
・集団コミュニケーション療法料	・病理診断管理加算2
・歯科口腔リハビリテーション料2	・口腔病理診断料 病理診断管理加算2
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調治療指導管理料に限る。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医療保護入院等診療料	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・歯科矯正診断料
・一酸化窒素吸入療法	・顎口腔機能診断料[顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの]
・手術用顕微鏡加算	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒト歯髄幹細胞からのiPS細胞誘導の効率化・良質化の検討	柴田 敏之	歯科口腔外科	1,950,000	補委 文部科学省
臨床応用を目的とした放射線治療における再酸化化とエネルギー代謝の解明	松尾 政之	放射線科	3,380,000	補委 文部科学省
生体内因性分子をプローブとする磁気共鳴代謝イメージング法の開発	兵藤 文紀	放射線科	6,240,000	補委 文部科学省
敗血症性心機能障害に対する細胞特異的ホーミングペプチドを用いた新規治療の確立	岡田 英志	高次救命治療センター	5,590,000	補委 文部科学省
Precision medicineに向けたゲノム解析に基づく胃癌がん新分類の試み	吉田 和弘	第2外科	7,280,000	補委 文部科学省
東南アジアの嘔みタバコ習慣と口腔粘膜DNAメチル化異常の擦過標本による検討	柴田 敏之	歯科口腔外科	2,080,000	補委 文部科学省
悪性黒色腫の抗がん剤耐性におけるスフィンゴ脂質代謝の関与と創薬研究	清島 真理子	皮膚科	650,000	補委 文部科学省
KATPチャネル・オープナーNicorandilによる新規心腎連関抑制療法の確立	西垣 和彦	第2内科	1,040,000	補委 文部科学省
急性冠症候群の予測のための冠動脈プラークの力学的ストレス解析超音波装置の開発	川崎 雅規	第2内科	1,430,000	補委 文部科学省
免疫介在性脳炎・脳症患者の血清中に存在する抗血管内皮抗体に関する研究	犬塚 貴	脳神経外科	1,300,000	補委 文部科学省
T1 ρ map解析による肝線維化初期群検出プログラムの構築	五島 聡	放射線部	650,000	補委 文部科学省
iPS技術を用いた明細胞肉腫起源細胞の解析と、分子標的治療の研究	大野 貴敏	整形外科	390,000	補委 文部科学省
ヘパラン硫酸に着目した変形性膝関節症の新たな病態の解明	松本 和	整形外科	1,560,000	補委 文部科学省
関節形態形成におけるメカニカルストレス応答機序の分子生物学的解析	瀧上 伊織	整形外科	1,560,000	補委 文部科学省
脳血管内皮機能からみた周術期高血糖管理法—脳血管障害防御のための戦略—	飯田 宏樹	麻酔科疼痛治療科	1,690,000	補委 文部科学省

血管内皮細胞特異的ホーミングペプチドによる敗血症に伴う急性腎障害治療の試み	吉田 隆浩	高次救命治療センター	1,300,000	補委	文部科学省
分子イメージングによる非侵襲的口腔癌診断システム確立のための基礎的研究	牧田 浩樹	歯科口腔外科	910,000	補委	文部科学省
リコンビナントインブリード系マウスを用いた膠原病治療反応多様性の解析	宮崎 龍彦	病理部	1,560,000	補委	文部科学省
動脈硬化の早期発見に向けた新たな頸動脈エコー動画解析による動脈硬化度の定量	森田 浩之	総合診療部	1,690,000	補委	文部科学省
臓器間ネットワーク制御を介した革新的メタボ肝発癌予防法の開発	清水 雅仁	第1内科	1,430,000	補委	文部科学省
急性心筋梗塞患者におけるMuse細胞動員の動態と左室リモデリングへの関与	田中 俊樹	第2内科	2,210,000	補委	文部科学省
先天性ケトン体代謝異常症の研究: 欠損細胞株の樹立と変異酵素発現実験系の確立	深尾 敏幸	小児科	1,560,000	補委	文部科学省
リンパ管腫瘍の発症因子および病態の解明	小関 道夫	小児科	1,690,000	補委	文部科学省
治療用抗原改変食品作成を目的とした食物アレルギーにおけるT細胞エピトープの探索	川本 典生	小児科	1,170,000	補委	文部科学省
新しい分子メカニズムに基づくIL18阻害薬開発法の確立	加藤 善一郎	小児科	1,560,000	補委	文部科学省
ASLを用いた頭頸部扁平上皮癌に対する放射線治療の治療効果予測	加藤 博基	放射線科	260,000	補委	文部科学省
局所高分解能微小灌流画像解析による臓機能および初期線維化抽出プロトコルの構築	子安 裕美	放射線科	1,040,000	補委	文部科学省
非造影MRI画像を用いたステントグラフト内挿術後の大動脈瘤予後予測システムの開発	川田 紘資	放射線科	1,300,000	補委	文部科学省
数理情報解析システムを用いたドラッグ・リポジショニングによる5-FU耐性機序解明	森 龍太郎	乳腺外科	910,000	補委	文部科学省
抗血小板剤不応症に対する治療ターゲットの探求	榎本 由貴子	脳神経外科	1,820,000	補委	文部科学省
4NQO誘発ラット舌癌モデルにおけるPD-1/PD-L1経路の解析	米本 和弘	歯科口腔外科	1,300,000	補委	文部科学省
老人性難聴に関連する認知機能と脳の構造変化とストレス関連ホルモン動態の解明	青木 光広	医療情報部	1,690,000	補委	文部科学省

グルコース感受性転写因子ChREBPを介したケトン体代謝調節機構の解明	飯塚 勝美	生体支援センター	1,690,000	補委	文部科学省
がん治療における口内炎に対する新規開発ボラブレジンク含有トローチ製剤の予防効果	鈴木 昭夫	薬剤部	1,820,000	補委	文部科学省
オランザピンの抗がん剤誘発性悪心・嘔吐に対する臨床的有効性とその作用機序の解明	小林 亮	薬剤部	1,820,000	補委	文部科学省
インセンティブ付与制度が多剤内服高齢者に与える影響の解明と制度設計に関する研究	林 祐一	神経内科・老年内科	1,820,000	補委	文部科学省
膵臓癌の癌微小環境構成細胞の解明: 転移制圧を目指して	末次 淳	第1内科	1,560,000	補委	文部科学省
IB-IVUSによる肺腫瘍診断	大野 康	第2内科	2,470,000	補委	文部科学省
悪性リンパ腫における慢性炎症からの発がんの検討	鶴見 寿	第1内科	1,040,000	補委	文部科学省
アトピー性皮膚炎の皮膚サイトカイン環境の網羅的解析	加納 宏行	皮膚科	2,340,000	補委	文部科学省
上腹部領域のMRI撮像における超時短プロトコルの標準化	河合 信行	光学医療診療部	1,430,000	補委	文部科学省
不良ミトコンドリア由来の活性酸素種を標的にした新規癌治療法の開発	二村 学	乳腺外科	1,820,000	補委	文部科学省
肺気腫症に対する肺切除後の肺再生と右心不全の予防に関する実験的検討	岩田 尚	呼吸器外科	2,210,000	補委	文部科学省
麻酔薬が脳代謝に与える影響からみた脳保護作用の分子基盤	田辺 久美子	麻酔科疼痛治療科	1,820,000	補委	文部科学省
敗血症における血管内皮グリコカリックスの超微形態的考察	小倉 真治	高次救命治療センター	2,080,000	補委	文部科学省
HLAハプロタイプホモ歯髄細胞およびiPS細胞由来エクソソームの解析	川口(武田) 知子	歯科口腔外科	1,430,000	補委	文部科学省
看護業務量推計モデルを基にした病棟マネジメント基盤開発	佐藤 菊枝	先端医療・臨床研究推進センター	910,000	補委	文部科学省
変形性関節症の治療標的を目指した軟骨細胞メカノトランスダクション機構の解明	小川 寛恭	整形外科	5,460,000	補委	文部科学省
尋常性乾癬における角層バリア機能異常の解明とその制御	岡野 智美	皮膚科	650,000	補委	文部科学省

高齢者のヒト歯髄細胞の分化能とiPS細胞樹立効率を向上させるための基礎的検討	飯田 一規	歯科口腔外科	910,000	補委	文部科学省
神経・筋生検のリスク解析と医療の質改善のためのクリティカルパス開発	竹腰 顕	神経内科・老年内科	650,000	補委	文部科学省
発熱疾患鑑別 好中球表面抗原CD64・CD35・CD49d測定の有用性	臼井 太郎	総合診療部	1,300,000	補委	文部科学省
がん患者におけるサルコペニア発症の分子的メカニズムの解明	中村 信彦	第1内科	1,300,000	補委	文部科学省
高血圧・レニン-アンギオテンシン系制御を介した肥満・NASH関連肝発癌抑制	河内 隆宏	生体支援センター	1,300,000	補委	文部科学省
膵嚢胞液中のmiRNA解析によるIPMNの鑑別診断・悪性化診断	岩下 拓司	第1内科	2,340,000	補委	文部科学省
アレルギー性メモリーT細胞の選択的除去による新規アレルギー治療概念の創出	池田 貴英	総合診療部	1,300,000	補委	文部科学省
アスパラギン合成酵素欠損症の診断スクリーニング法の確立と治療法の研究	久保田 一生	小児科	1,950,000	補委	文部科学省
拡散強調画像を用いた肛門括約筋・神経叢の機能評価と術後機能温存の予測	渡邊 春夫	放射線科	780,000	補委	文部科学省
ビタミンK非依存性抗凝固薬が血小板に及ぼす影響に関する研究	辻本 真範	脳神経外科	2,080,000	補委	文部科学省
糖尿病に対するシロスタゾールによる血栓症・動脈硬化予防効果解析	宮居 雅文	脳神経外科	2,080,000	補委	文部科学省
周術期における血小板機能に関する研究—抗血小板薬休薬と禁煙の影響の検討	鬼頭 祐子	麻酔科疼痛治療科	910,000	補委	文部科学省
腎癌由来エクソソームの解析と応用	水谷 晃輔	泌尿器科	1,950,000	補委	文部科学省
リコモジュリンの抗炎症効果による重症敗血症抑制効果の解析	鈴木 浩大	高次救命治療センター	1,820,000	補委	文部科学省
重症軟部組織損傷に対する高気圧酸素療法の応用と解析	神田 倫秀	高次救命治療センター	1,820,000	補委	文部科学省
メタボリック症候群を基盤病態とする大腸発癌の特性:分子異常とmiRNAの解析	久保田 全哉	生体支援センター	1,040,000	補委	文部科学省
レチノイド核内受容体RXR α 遺伝子改変マウスを用いた新規NASH肝臓治療法の開発	境 浩康	第1内科	1,690,000	補委	文部科学省

HSD10病の病態解析	笹井 英雄	新生児集中治療部	1,820,000	補 委	文部科学省
ゴーハム病の発症因子および病態の解明	野澤 明史	小児科	2,080,000	補 委	文部科学省
器質的疾患としての脳卒中後うつ状態の解明と治療法の開発	江頭 裕介	脳神経外科	1,820,000	補 委	文部科学省
機能イメージングを用いたがん微小環境、特に抗がん免疫環境の評価法の検討	大橋 敏充	耳鼻咽喉科	1,170,000	補 委	文部科学省
敗血症性心筋障害におけるインテグリン受容体の機能の解析	川口 智則	高次救命治療センター	2,080,000	補 委	文部科学省
アンチトロンピン製剤による血管内皮保護効果の検討	岡本(池庄司) 遥	高次救命治療センター	1,690,000	補 委	文部科学省
腱・腱鞘滑膜細胞特異的遺伝子改変 マウスを利用した腱疾患の治療開発	河村 真吾	整形外科	1,300,000	補 委	文部科学省
液性因子SPARCに着目した膵ホルモンを介さない血糖調節機構	武田 純	第3内科	4,030,000	補 委	文部科学省
ヒト歯髄細胞のドナー個体差を利用した脊髄損傷治療の研究	杉山 健	歯科口腔外科	1,430,000	補 委	文部科学省
病理学的Stage II/IIIで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第III相試験	吉田和弘	第2外科	18,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
特発性大腿骨頭壊死症におけるbFGF含有ゼラチンハイドロゲルによる壊死骨再生治療の開発	秋山治彦	整形外科	50,029,434	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新生児マスキリーニング対象疾患等の診療に直結するエビデンス創出研究	深尾敏幸	小児科	7,930,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
健康で自立的な生活を支援するための身体バランス測定・評価技術の研究開発	青木隆明	整形外科	44,200	補 委	総務省東海総合通信局
急性脊髄損傷患者に対する顆粒球コロニー刺激因子を用いたランダム化、プラセボ対照、二重盲検並行群間比較試験第III相試験	伏見一成	整形外科	999,868	補 委	公益社団法人日本医師会

標準的乳がんラジオ波熱焼灼療法確立のための多施設共同臨床研究	二村学	乳腺外科	800,000	補 委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験ACHIEVE Trial (JFMC47-1202-C3)	吉田 和弘	第2外科	140,400	補 委	(公財)がん集学的治療研究財団
再発危険因子を有するStageⅡ大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究 (JFMC46-1201)	吉田 和弘	第2外科	237,600	補 委	(公財)がん集学的治療研究財団
難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究	小関 道夫	小児科	60,047,713	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
薬剤耐性性感染症の分子疫学解析手法の確立と薬剤耐性化機構に関する研究	安田 満	泌尿器科	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ネガティブ試験等の結果を用いた効率的な試験デザイン等の検討に関する研究	浅田 隆太	先端医療・臨床研究推進センター	1,460,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
リンパ管疾患データベースの整備及び疾患関連試料基礎バンクの作成	小関 道夫	小児科	300,000	補 委	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
非弁膜症性心房細動とアテローム血栓症を合併する脳梗塞例の二次予防における最適な抗血栓療法に関する多施設共同ランダム化比較試験(略称 ATIS-NVAF)	岩間 亨	脳神経外科	21,600	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
標準化学療法に不応・不耐の切除不能進行・再発大腸癌に対するTFTD(ロンサーフ®)+Bevacizumab併用療法のRAS遺伝子変異有無別の有効性と安全性を確認する第Ⅱ相試験	吉田 和弘	第2外科	324,000	補 委	(公財)がん集学的治療研究財団

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Iizuka K,	第3内科	The Role of Carbohydrate Response Element Binding Protein in Intestinal and Hepatic Fructose Metabolism.	Nutrients. 2017 Feb 22; 9(2). pii: E181.	Review
2	Iizuka K,	第3内科	The transcription factor carbohydrate-response element-binding protein (ChREBP): A possible link between metabolic disease and cancer.	Biochim Biophys Acta. 2017 Feb; 1863(2): 474-485.	Review
3	Horikawa Y, Enya M, Yoshikura N, et al.	第3内科	A first case of adrenomyeloneuropathy with mutation Y174S of the adrenoleukodystrophy gene.	Neuro Endocrinol Lett 38. 2017, 13-18.	Original Article
4	Ohnishi H, Kawamoto N, Seishima M, et al.	小児科	A Japanese family case with juvenile onset Behcet's disease caused by TNFAIP3 mutation.	Allergol Int. 2017; 66: 146-148.	Letter
5	Mizutani Y, Okano T, Takahashi T, et al.	小児科	Pyoderma Gangrenosum, Acne and Suppurative Hidradenitis Syndrome Treated with Granulocyte and Monocyte Adsorption Apheresis.	Acta Derm Venereol. 2017; 97: 275-276.	Others
6	Sasai H, Aoyama Y, Otsuka H, et al	小児科	Single-nucleotide substitution T to A in the polypyrimidine stretch at the splice acceptor site of intron 9 causes exon 10 skipping in the ACAT1 gene.	Mol Genet Genomic Med. 2017; 5: 177-184.	Original Article
7	Takashima S, Toyoshi K, Itoh T, et al	小児科	Detection of unusual very-long-chain fatty acid and ether lipid derivatives in the fibroblasts and plasma of patients with peroxisomal diseases using liquid chromatography-mass spectrometry.	Mol Genet Metab. 2017; 120: 255-268.	Original Article
8	Yamamoto T, Endo W, Ohnishi H, et al	小児科	The first report of Japanese patients with asparagine synthetase deficiency.	Brain Dev. 2017; 39: 236-242.	Original Article
9	Fujii A, Mizutani Y, Hattori Y, et al	小児科	Sweet's Syndrome Successfully Treated with Granulocyte and Monocyte Adsorption Apheresis.	Case Rep Dermatol. 2017;9: 13-18.	Original Article
10	Aoyama Y, Sasai H, Abdelkreem E, et al	小児科	A novel mutation (c.12113T>A) in the polypyrimidine tract of the splice acceptor site of intron 2 causes exon 3 skipping in mitochondrial acetoacetyl-CoA thiolase gene.	Mol Med Rep. 2017; 15: 3879-3884.	Original Article

11	Kawamoto N, Kamemura N, Kido H, et al	小児科	Detection of ovomucoid-specific low-affinity IgE in infants and its relationship to eczema.	Pediatr Allergy Immunol. 2017; 28: 355-361.	Original Article
12	Matsuzawa-Kinomura Y, Ozeki M, et al	小児科	Neonatal dysphonia caused by subglottic infantile hemangioma.	Pediatr Int. 2017; 59: 935-936.	Others
13	Ohnishi H, Kishimoto Y, Taguchi T, et al	小児科	Immunodeficiency in Two Female Patients with Incontinentia Pigmenti with Heterozygous NEMO Mutation Diagnosed by LPS Unresponsiveness.	J Clin Immunol. 2017; 37: 529-538.	Original Article
14	Ozeki M, Nozawa A, Kanda K, et al	小児科	Everolimus for Treatment of Pseudomyogenic Hemangioendothelioma.	J Pediatr Hematol Oncol. 2017; 39: e328-e331.	Original Article
15	Abdelkreem E, Akella RRD, Dave U, et al	小児科	Clinical and Mutational Characterizations of Ten Indian Patients with Beta-Ketothiolase Deficiency.	JIMD Rep. 2017; 35: 59-65.	Original Article
16	Fujii A, Ohnishi H, Seishima M:	小児科	Generalized Pustular Psoriasis With IL-36 Receptor Antagonist Mutation Successfully Treated With Granulocyte and Monocyte Adsorption Apheresis Accompanied by Reduced Serum IL-6 Level.	Ther Apher Dial. 2017.	Letter
17	Kadowaki S, Hori T, Matsumoto H, et al	小児科	Prepubertal onset of slipped capital femoral epiphysis associated with hypothyroidism: a case report and literature review.	BMC Endocr Disord. 2017; 17: 59.	Original Article
18	Kato H, Ozeki M, Fukao T, Matsuo M:	小児科	MR imaging findings of vertebral involvement in Gorham-Stout disease, generalized lymphatic anomaly, and kaposiform lymphangiomatosis.	Jpn J Radiol. 2017; 35: 606-612.	Original Article
19	Kubota K, Yamamoto T, Orii K, et al	小児科	Acute dystonia associated with aripiprazole overdose in an adolescent boy.	Asian J Psychiatr. 2017; 29: 183-184.	Letter
20	Nozawa A, Ozeki M, Hori T, et al	小児科	A Heterozygous CFHR3-CFHR1 Gene Deletion in a Pediatric Patient With Transplant-associated Thrombotic Microangiopathy Who was Treated With Eculizumab.	J Pediatr Hematol Oncol. 2017.	
21	Sasai H, Aoyama Y, Otsuka H, et al	小児科	Heterozygous carriers of succinyl-CoA:3-oxoacid CoA transferase deficiency can develop severe ketoacidosis.	J Inherit Metab Dis. 2017; 40: 845-852.	Original Article
22	Kadowaki T, Ohnishi H, Kawamoto N, et al	小児科	Haploinsufficiency of A20 causes autoinflammatory and autoimmune disorders.	J Allergy Clin Immunol. 2017. (doi: 10.1016/j.jaci.2017.10.039). 6.87	Original Article

23	Minatoguchi S, Kawasaki M, Tanaka R, et al	第2内科	Evaluation of systolic and diastolic properties of hypertensive heart failure using speckle-tracking echocardiography with high volume rates.	Heart Vessels. 2017; 32(10): 1202-1213.	Original Article
24	Nakashima T, Suzuki K, Aoyama T, et al	第2内科	Optimizing the detection of macroscopic T-wave alternans using high precordial leads in a patient with Brugada syndrome.	Europace. 2017; 19(5): 721.	Original Article
25	Minatoguchi S, Takasugi N, Kubota T, et al	第2内科	Augmented QRS notching and macroscopic T-wave alternans preceding polymorphic ventricular tachycardia in a patient with electrical storm.	Europace. 2017; 19(4): 643.	Others
26	Matsumoto-Miyazaki J, Ushikoshi H, et al	第2内科	Acupuncture and Traditional Herbal Medicine Therapy Prevent Delirium in Patients with Cardiovascular Disease in Intensive Care Units.	Am J Chin Med. 2017; 45(2): 255-268.	Others
27	Nakashima T, Kubota T, Takasugi N, et al	第2内科	Hyperglycemia and subsequent torsades de pointes with marked QT prolongation during refeeding.	Nutrition. 2017; 33: 145-148.	Original Article
28	Baba S, Iwasa M, Higashi K, Minatoguchi S, et al	第2内科	Antidiabetic Drug Alogliptin Protects the Heart Against Ischemia-reperfusion Injury Through GLP-1 Receptor-dependent and Receptor-independent Pathways Involving Nitric Oxide Production in Rabbits.	J Cardiovasc Pharmacol. 2017; 70(6): 382-389.	Original Article
29	Okamoto C, Hayakawa Y, Aoyama T, et al	第2内科	Excessively low salt diet damages the heart through activation of cardiac (pro) renin receptor, renin-angiotensin-aldosterone, and sympatho-adrenal systems in spontaneously hypertensive rats.	PLoS One. 2017; 12(12): e0189099.	Original Article
30	Sahashi Y, Takasugi N, Naruse G, et al	第2内科	Microvolt T-wave alternans monitoring in a patient with levofloxacin-induced Torsade de Pointes.	J Electrocardiol. 2017; 51(1): 108-110.	Original Article
31	Yamaji F, Okada H, Nakajima Y, Suzuki K, et al	第1外科	Blunt cardiac injury due to trauma associated with snowboarding: a case report.	J Med Case Rep. 2017; 11: 80.	Original Article
32	Hatano Y, Kawashima K, Iwashita T, et al	第1外科	A Solid Pseudopapillary Neoplasm of the Pancreas Associated With IgG4-Related Pancreatitis: A Case Report.	Int J Surg Pathol. 2017; 25: 271-275.	Original Article

33	Nagano A, Ishimaru D, Nishimoto Y, et al	整形外科	Primary bone sarcomas in patients over 40 years of age: A retrospective study using data from the Bone Tumor Registry of Japan.	J Orthop Sci. 2017 Apr 12. pii: S0949-2658(17)30076-3. doi: 10.1016/j.jos.2017.03.008 . [Epub ahead of print]	Original Article
34	Matsumoto K, Ogawa H, Yoshioka H, et al	整形外科	Postoperative Anteroposterior Laxity Influences Subjective Outcome After Total Knee Arthroplasty. J Arthroplasty.	2017Dec 29. pii: S0883-5403(16)30928-7. doi: 10.1016/j.arth.2016.12.043. [Epub ahead of print]	
35	Matsumoto K, Ogawa H, Fukuta M, et al	整形外科	Comparative Study for Alignment of Extramedullary Guides versus Portable, Accelerometer-Based Navigation in Total Knee Arthroplasty.	J Knee Surg. 2017 May 1. doi: 10.1055/s-0037-1602133.	Original Article
36	Ishimaru D, Nagano A, Terabayashi N, Nishimoto Y, Akiyama H.	整形外科	Suprascapular Nerve Entrapment Caused by Protrusion of an Intraosseous Ganglion of the Glenoid into the Spinoglenoid Notch: A Rare Cause of Posterior Shoulder Pain.	Case Rep Orthop. 2017; 2017: 1704697.	
37	Ogawa H, Matsumoto K, Akiyama H.	整形外科	The prevention of a lateral hinge fracture as a complication of a medial opening wedge high tibial osteotomy:	a case control study. Bone Joint J. 2017 Jul;99-B(7): 887-893. doi: 10.1302/0301-620X.99B7.BJJ-2016-0927.R1.	Original Article
38	Yozawa S, Ogawa H, Matsumoto K, et al	整形外科	Periarticular Injection of Tranexamic Acid Reduces Blood Loss and the Necessity for Allogeneic Transfusion After Total Knee Arthroplasty Using Autologous Transfusion: A Retrospective Observational Study.	J Arthroplasty. 2017 Aug 24. pii: S0883-5403(17)30741-6. doi: 10.1016/j.arth.2017.08.018.	Original Article
39	Ogawa H, Matsumoto K, Akiyama H.	整形外科	New angle measurement device to control the posterior tibial slope angle in medial opening wedge high tibial osteotomy.	Arch Orthop Trauma Surg. 2017 Nov 17. doi: 10.1007/s00402-017-2846-0. [Epub ahead of print]	Original Article
40	Abe SI, Abe K, Zhang J, Harada T, et al	整形外科	Roles of CD34+ cells and ALK5 signaling in the reconstruction of seminiferous tubule-like structures in 3-D re-aggregate culture of dissociated cells from neonatal mouse testes.	PLoS One. 2017 Nov 30; 12(11):e0188705. doi: 10.1371/journal.pone.0188705. eCollection 2017.	Original Article
41	Komura S, Hirakawa A, Masuda T, et al	整形外科	Recurrent atraumatic acute carpal tunnel syndrome due to hematoma caused by distal radioulnar joint arthritis during anticoagulant treatment with apixaban. Arch Orthop Trauma Surg.	2017 Aug;137(8): 1161-1164. doi: 10.1007/s00402-017-2730-y.	Original Article

42	Ogawa, H., Matsumoto, K., Terabayashi, N., et al	整形外科	Association of lubricin concentration in synovial fluid and clinical status of osteoarthritic knee.	Modern rheumatology, 2017 27(3), 489-492.	Original Article
43	Hirakawa A, Ohno Y, Akiyama H.	整形外科	Tardy radial nerve palsy in congenital pseudarthrosis of the olecranon: A case report.	J Orthop Sci. 2017 Jul;22(4): 787-789. doi: 10.1016/j.jos.2015.10.015 . Epub 2015 Nov 18	Original Article
44	Shu E, Kanoh H, Murakami A, et al	皮膚科	Potential inhibition of development of rapidly progressive interstitial lung disease by prompt and sufficient immunosuppressive treatment in patients with anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive dermatomyositis.	J Dermatol. 2017; 44: e91-e92.	Letter
45	Matsuyama K, Mizutani Y, Takahashi T, et al	皮膚科	Enhanced dendritic cells and regulatory T cells in the dermis of porokeratosis.	Arch Dermatol Res. 2017; 309: 749-756.	Original Article
46	Kanno H, Ishida K, Yamada W, et al	皮膚科	Uveitis induced by programmed cell death protein 1 inhibitor therapy with nivolumab in metastatic melanoma patient.	J Infect Chemotherapy. 2017; 23: 774-777.	Original Article
47	Fujii A, Matsuyama K, Mizutani Y, et al	皮膚科	Multiple familial trichoepithelioma with a novel mutation of the CYLD gene.	J Dermatol. 2017; 44: e228-e229.	Original Article
48	Hattori Y, Takahashi T, Seishima M.	皮膚科	Bullous pemphigoid successfully treated with a combination therapy of plasmapheresis followed by intravenous high dose immunoglobulin.	Ther Apher Dial. 2017;21: 421-423.	Letter
49	Hattori Y, Matsuyama K, Shu E, et al	皮膚科	Symmetrical drug-related intertriginous and flexural exanthema possibly due to thiamine disulfide.	J Dermatol. 2017; 44: e115-e116.	Letter
50	Mizutani K, Horie K, Nagai S, et al	泌尿器科	Response to nivolumab in metastatic collecting duct carcinoma expressing PD-L1: A case report.	Mol Clin Oncol. 2017; 7: 988-990.	Case report
51	Nakano M, Araki H, Ohtakara K, et al	泌尿器科	Significance of total colonoscopy screening before definitive radiotherapy for prostate cancer on the detection of anorectocolonic disease requiring intervention in advance.	Int J Urol. 2017 Nov 23. doi: 10.1111/iju.13494.	Others

52	Kondo H, Ito S, Hatazaki K, Horie K, et al	泌尿器科	GyrA and/or ParC alterations of Haemophilus influenzae strains isolated from the urethra of men with acute urethritis.	J Infect Chemother. 2017 Nov 11. pii: S1341-321X(17)30246-5. doi: 10.1016/j.jiac.2017.10.013.	Original Article
53	Deguchi T.	泌尿器科	Proposed treatment strategies for non-gonococcal urethritis.	Lancet Infect Dis. 2017; 17: 1121-1122.	Letter
54	Horie K, Kawakami K, Fujita Y, et al	泌尿器科	Exosomes expressing carbonic anhydrase 9 promote angiogenesis.	Biochem Biophys Res Commun. 2017; 492: 356-361.	Original Article
55	Deguchi T, Ito S, Hatazaki K, Horie K, et al	泌尿器科	Antimicrobial susceptibility of Haemophilus influenzae strains isolated from the urethra of men with acute urethritis and/or epididymitis.	J Infect Chemother. 2017; 23: 804-807.	Original Article
56	Deguchi T, Ito S, Yasuda M, et al	泌尿器科	Emergence of Mycoplasma genitalium with clinically significant fluoroquinolone resistance conferred by amino acid changes both in GyrA and ParC in Japan.	J Infect Chemother. 2017: 648-650.	Original Article
57	Tanioka A, Deguchi T.	泌尿器科	Effect of a Bicyclic Pyrimidine Derivative (KRP-103), a Novel Selective Tachykinin NK1 Receptor Antagonist, on Bladder Function in Guinea Pigs.	Drug Res (Stuttg). 2017; 67: 302-307.	Original Article
58	Kameyama K, Horie K, Mizutani K, et al	泌尿器科	Enzalutamide inhibits proliferation of gemcitabine-resistant bladder cancer cells with increased androgen receptor expression.	Int J Oncol. 2017; 50: 75-84.	Original Article
59	Yasuda M, Hatazaki K, Ito S, et al	泌尿器科	Antimicrobial Susceptibility of Neisseria gonorrhoeae in Japan from 2000 to 2015.	Sex Transm Dis. 2017; 44: 149-153.	Original Article
60	Sakata K, Yoshimura N, Tanabe K, et al	麻酔科疼痛治療科	Prediction of hypotension during spinal anesthesia for elective cesarean section by altered heart rate variability induced by postural change.	Inr J Obstet Anesth. 2017; 29: 34-38.	Original Article
61	Minami K, Sugiyama Y, Iida H.	麻酔科疼痛治療科	A retrospective observational cohort study investigating the association between acute kidney injury and all-cause mortality among patients undergoing endovascular repair of abdominal aortic aneurysms.	J Anesth. 2017; 31: 686-691.	Original Article

62	Ishida K, Tomita H, Nakashima T, et al	歯科口腔外科	Current mouse models of oral squamous cell carcinoma: Genetic and chemically induced models.	Oral Oncol. 2017 Oct;73: 16-20.	Review
63	Nakashima T, Tomita H, Hirata A, et al	歯科口腔外科	Promotion of cell proliferation by the proto-oncogene DEK enhances oral squamous cell carcinogenesis through field cancerization.	Cancer Med. 2017 Oct;6(10): 2424-2439.	Original Article
64	Kawaguchi M, Kato H, Kito Y, et al	歯科口腔外科	Imaging findings of primary immunoglobulin G4-related cervical lymphadenopathy.	Neuroradiology. 2017 Nov;59(11): 1111-1119.	Original Article
65	Kimura A, Takemura M, Saito K, et al	神経内科・老年内科	Increased cerebrospinal fluid progranulin correlates with interleukin-6 in the acute phase of neuromyelitis optica spectrum disorder.	J Neuroimmunol. 2017; 305: 175-181.	Original Article
66	Kimura A, Takemura M, Saito K, et al	神経内科・老年内科	Comparison of cerebrospinal fluid profiles in Alzheimer's disease with multiple cerebral microbleeds and cerebral amyloid angiopathy-related inflammation.	J Neurol. 2017; 264: 373-381.	Original Article
67	Kimura A, Takemura M, Saito K, et al	神経内科・老年内科	Association between naturally occurring anti-amyloid β autoantibodies and medial temporal lobe atrophy in Alzheimer's disease.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2017; 88: 126-131.	Original Article
68	Hayashi Y, Yasunishi M, Hayashi M, et al	神経内科・老年内科	Reversible splenial lesion of the corpus callosum associated with meningococcal meningitis.	J Neurol Sci. 2017; 373: 81-82.	Letter
69	Hayashi Y, Godai A, Yamada M, et al	神経内科・老年内科	Reduction in the numbers of drugs administered to elderly in-patients with polypharmacy by a multidisciplinary review of medication using electronic medical records.	Geriatr Gerontol Int. 2017; 17: 653-658.	Original Article
70	Hayashi Y, Koumura A, Yamada M, et al	神経内科・老年内科	Acute-onset severe occipital neuralgia associated with high cervical lesion in neuromyelitis optica spectrum disorder patients.	Headache 2017; 57,: 1145-1151.	Original Article
71	Hayashi Y, Kimura A, Nakamura H, et al	神経内科・老年内科	Neuropathological findings of an autopsied case showing posterior reversible encephalopathy syndrome-like neuroradiological findings associated with premedication including tacrolimus for autologous peripheral blood stem cell transplantation.	J Neurol Sci. 2017; 375: 382-387.	Original Article
72	Hayashi Y, Yamada M, Kimura A, et al	神経内科・老年内科	IVIG treatment for repeated hypothermic attacks associated with LGI1 antibody encephalitis.	Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm 2017; 4,: e348.	Others

73	Hayashi Y, Iwasaki Y, Yoshikura N, et al	神経内科・老年内科	An autopsy-verified case of steroid-responsive encephalopathy with convulsion and a false-positive result of real-time quaking-induced conversion assay.	Prion 2017; 11;: 284-292	Original Article
74	Hayashi Y, Nagasawa M, Asano T, et al	神経内科・老年内科	Central hypothermia associated with Alexander disease. A case report.	Clin Neurol Neurosurg. 2017; 157: 31-33.	Original Article
75	Hayashi Y, Yamada M, Kimura A, et al	神経内科・老年内科	Clinical findings of a probable case of MM2-cortical-type sporadic Creutzfeldt-Jakob disease with antibodies to anti-N-terminus of α -enolase.	Prion 2017; 11: 454-464.	Original Article
76	Yoshikura N, Kimura A, Hayashi Y, et al	神経内科・老年内科	Anti-C1q autoantibodies in patients with neuromyelitis optica spectrum disorder.	J Neuroimmunol. 2017; 310: 150-157.	Others
77	Yamada W, Takekoshi A, Ishida K, et al	神経内科・老年内科	Case of adult-onset neuronal intranuclear hyaline inclusion disease with negative electroretinogram.	Doc Ophthalmol. 2017; 134: 221-226.	Original Article
78	Ishida K, Nishida T, Niimi Y, et al	神経内科・老年内科	Elderly onset vitreous opacities as the initial manifestation in hereditary transthyretin (ATTR Val30Met) carries.	Ophthalmic Genetics 2017; 38: 387-391.	Original Article
79	Tanaka Y, Hotta M, Inuzuka T.	神経内科・老年内科	The preparations of patients with amyotrophic lateral sclerosis for disaster after the Great East Japan earthquake.	J Neurol Sci 2017; 15: 304-305.	Letter
80	Yano H, Shinoda J, Iwama T.	脳神経外科	Clinical utility of positron emission tomography in patients with malignant glioma.	Neurol Med Chir(Tokyo). 2017; 57: 312-320.	Review
81	Yano H, Nakayama N, Ohe N, et al	脳神経外科	Pathological analysis of the surgical margins of resected glioblastomas excised using photodynamic visualization with both 5-aminolevulinic acid and fluorescein sodium.	J Neurooncol. 2017; 133: 389-397.	Original Article
82	Yano H, Shinoda J, Iwama T.	脳神経外科	Deferoxamine may enhance 5-aminolevulinic acid-based fluorescence in glioma surgery.	Transl Cancer Res. 2017; 6(suppl 6): S1088-S1090.	Others
83	Egashira Y, Yamauchi K, Enomoto Y, et al	脳神経外科	Disruption of cortical arterial network is associated with the severity of transient neurologic events after direct bypass surgery in adult moyamoya disease.	World Neurosurg. 2017; 100: 311-315.	Original Article
84	Tsujimoto M, Enomoto Y, Kokuzawa J, et al	脳神経外科	Diabetes mellitus and carotid artery plaques exhibiting high-intensity signals on MR angiography are related to increased platelet reactivity after carotid artery stenting.	J Neurointerv Surg. 2017; 9: 106-110.	Original Article

85	Aoki M.	耳鼻咽喉科	The impaired subjective perception of verticality independent of peripheral vestibular function in dizzy elderly with orthostatic hypotension.	Aging Clin Exp Res. 2017; 29: 647-653.	Original Article
86	Kohyama K, Hyodo I, Hasegawa Y, et al	耳鼻咽喉科	Selection of recipient vessels for free flap following intra-arterial chemoradiotherapy.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2017; 70: 25-30.	Original Article
87	Kato H, Fujimoto K, Matsuo M, et al	耳鼻咽喉科	Usefulness of diffusion-weighted MR imaging for differentiating between Warthin's tumor and oncocytoma of the parotid gland.	Jpn J Radiol. 2017; 35: 78-85.	Original Article
88	Watanabe R, Muramatsu C, Ishida K, et al	眼科	Automated detection of nerve fiber layer defects on retinal fundus images using fully convolutional network for early diagnosis of glaucoma.	Proc SPIE Medical Imaging2017: 10134: 1013438-1-1013438-7.	Others
89	Takagi D, Sawada A, Yamamoto T	眼科	comparison with Goldmann applanation tonometer.	J Glaucoma2017: 26(7): 613-618.	Original Article
90	Oie S, Ishida K, Yamamoto T	眼科	Impact of intraocular pressure reduction on visual field progression in normal-tension glaucoma followed up over 15 years.	Jpn J Ophthalmol2017: 61(4): 314-323.	Original Article
91	Sawada A, Manabe Y, Yamamoto T, et al	眼科	Long-term clinical course of normotensive preperimetric glaucoma.	Br J Ophthalmol2017: 101(12): 1649-1653.	Original Article
92	Mochizuki K, Nishida T, Murata K, et al	眼科	Rousoella solani causing keratomycosis, with an observed both sexual and asexual morphs.	J Infect Chemother. 2017: 23(9): 651-654.	Original Article
93	Matsuhashi N, Yamaguchi K, Okumura N, et al	第2外科	The technical outcomes of delta-shaped anastomosis in laparoscopic distal gastrectomy: a single-center safety and feasibility study.	Surgical Endoscopy. 2017; 31(3): 1257-1263.	Original Article
94	Yamaguchi K, Yoshida K, Tanahashi T, et al	第2外科	The long-term survival of stage IV gastric cancer patients with conversion therapy.	Gastric Cancer DOI: 10.1007/s10120-017-0738-1 Published on-line 2017.	Original Article
95	Mori R, Futamura M, Morimitsu K, et al	第2外科	The diagnosis of a metastatic breast tumor from ovarian cancer by the succession of a p53 mutation: A case report.	World Journal of Surgical Oncology. 2017; 15(1): 117.	Original Article
96	Futamura M, Nagao Y, Ishihara K, et al	第2外科	Preoperative neoadjuvant chemotherapy using nanoparticle albumin-bound paclitaxel followed by epirubicin and cyclophosphamide for operable breast cancer: a multicenter phase II trial.	Breast Cancer. 2017; 24(4): 615-623.	Original Article

97	Mori R, Futamura M, Tanahashi T, et al	第2外科	5FU resistance caused by reduced fluoro-deoxyuridine monophosphate and its reversal using deoxyuridine.	Oncology Letters. 2017; 14(3): 3162-3168.	Original Article
98	Fujii H, Iihara H, Kajikawa N, Kobayashi R, et al	第2外科	Control of Nausea Based on Risk Analysis in Patients with Esophageal and Gastric Cancer Who Received Cisplatin-based Chemotherapy.	Anticancer Research. 2017; 37: 6831-6837.	Original Article
99	Shiraki M, Shimizu M, Moriwaki H, et al	第1内科	Carnitine dynamics and their effects on hyperammonemia in cirrhotic Japanese patients.	Hepato Res 2017; 47: 321-327.	Original Article
100	Iwashita T, Yasuda I, Mukai T, et al	第1内科	Endoscopic ultrasound-guided antegrade biliary stenting for unresectable malignant biliary obstruction in patients with surgically altered anatomy: Single-center prospective pilot study.	Dig Endosc 2017; 29: 362-368.	Original Article
101	Imai K, Takai K, Watanabe S, Hanai T, et al	第1内科	Sarcopenia impairs prognosis of patients with hepatocellular carcinoma: The role of liver functional reserve and tumor-related factors in loss of skeletal muscle volume.	Nutrients 2017; 9. pii: E1054.	Original Article
102	Hanai T, Shiraki M, Watanabe S, et al	第1内科	Sarcopenia predicts minimal hepatic encephalopathy in patients with liver cirrhosis.	Hepato Res 2017; 47: 1359-1367.	Original Article
103	Hasegawa K, Suetsugu A, Nakamura M, et al	第1内科	Imaging the role of multinucleate pancreatic cancer cells and cancer-associated fibroblasts in peritoneal metastasis in mouse models.	Anticancer Res 2017; 37: 3435-3440.	Original Article
104	Nakamura M, Suetsugu A, Hasegawa K, et al	第1内科	Genetic recombination between stromal and cancer cells results in highly malignant cells identified by color-coded imaging in a mouse lymphoma model.	J Cell Biochem 2017; 118: 4216-4221.	Original Article
105	Nakamura M, Suetsugu A, Hasegawa K, et al	第1内科	Choline-deficient-diet-induced fatty liver is a metastasis-resistant microenvironment.	Anticancer Res 2017; 37: 3429-3434.	Original Article
106	Hayashi H, Suzuki A, Ohata K, et al	第1内科	Control of constipation in patients receiving CHOP or CHOP-like chemotherapy regimens for non-hodgkin's lymphoma.	Biol Pharm Bull 2017; 40: 698-702.	Original Article
107	Hirose S, Matsuura K, Kato-Hayashi et al	第1内科	Gastrointestinal bleeding associated with chronic excessive use overdosing with topical ketoprofen patch in elderly patient.	Scand J Gastroenterol 2017: 1-4.	Original Article
108	Takenaka M, Suzuki N, Mori M, Hirayama T, et al	産科婦人科	Iron regulatory protein 2 in ovarian endometrial cysts.	BBRC. 2017; 487: 789-794.	Original Article

109	Sayed Aluwee SA, Zhou X, Kato H, et al	産科婦人科	Evaluation of pre-surgical models for uterine surgery by use of three-dimensional printing and mold casting.	Radiol Phys Technol. 2017; 10: 279-285.	Original Article
110	Goshima S, Bae KT.	放射線科	Liver Surface Nodularity as a Biomarker for Detection and Evaluation of Cirrhosis.	Radiology. 2017; 283(3): 921-922.	Letter
111	Goshima S, Noda Y, Kajita K, et al	放射線科	Gadoxetic acid-enhanced high temporal-resolution hepatic arterial-phase imaging with view-sharing technique: Impact on the LI-RADS category.	Eur J Radiol. 2017; 94: 167-173.	Original Article
112	Tanahashi Y, Goshima S, Kondo H, et al	放射線科	Transcatheter Arterial Embolization for Primary Postpartum Hemorrhage: Predictive Factors of Need for Embolic Material Conversion of Gelatin Sponge Particles to N-Butyl Cyanoacrylate.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2017; 40(2): 236-244.	Original Article
113	Tanahashi Y, Goshima S, Kondo H, et al	放射線科	Additional value of venous phase added to aortic CT angiography in patients with aortic aneurysm.	Clin Imaging. 2017; 44: 51-56.	Original Article
114	Tanaka H, Yamaguchi T, Hachiya K, et al	放射線科	Radiotherapy for locally recurrent rectal cancer treated with surgery alone as the initial treatment.	Radiat Oncol J. 2017; 35(1): 71-77.	Original Article
115	Tanaka H, Ito M, Yamaguchi T, et al	放射線科	High tangent Radiation Therapy With Field-in-Field Technique for Breast Cancer.	Breast Cancer(Auckl). 2017; 11: 1178223417731297.	Original Article
116	Tanaka H, Yamaguchi T, Hachiya K, et al	放射線科	Does intensity-modulated radiation therapy (IMRT) alter prostate size? Magnetic resonance imaging evaluation of patients undergoing IMRT alone.	Rep Pract Oncol Radiother. 2017; 22(6): 477-481.	Original Article
117	Noda Y, Goshima S, Nagata S, et al	放射線科	Visualization of right adrenal vein: Comparison with three phase dynamic contrast-enhanced CT.	Eur J Radiol. 2017; 96: 104-108.	Original Article
118	Noda Y, Goshima S, Koyasu H, et al	放射線科	Renovascular CT: comparison between adaptive statistical iterative reconstruction and model-based iterative reconstruction.	Clin Radiol. 2017; 72(10): 901.e13-901.e19.	Original Article
119	Noda Y, Goshima S, Kojima T, et al	放射線科	Improved diagnosis of common bile duct stone with single-shot balanced turbo field-echo sequence in MRCP.	Abdom Radiol (NY). 2017; 42(4): 1183-1188.	Original Article
120	Ando T, Kato H, Matsuo M.	放射線科	Comparison between MR imaging findings of intracranial and extracranial schwannomas.	Clin Imaging. 2017; 42: 218-223.	Original Article

121	Yoshida S, Suzuki A, Ohmori T, et al	薬剤部	A simplified chart for determining the initial loading dose of teicoplanin in critically ill patients.	Die Pharmazie 2017; 1 (6811): 53-57.	Original Article
122	Harada S, Suzuki A, Nishida S, et al	薬剤部	Reduction of medication errors related to sliding scale insulin by the introduction of a standardized order sheet.	J Eval Clin Pract 2017; 23: 582-585.	Original Article
123	Kaito D, Iihara H, Funaguchi N, et al	薬剤部	Efficacy of Single-dose First-generation 5-HT3 Receptor Antagonist and Dexamethasone for Preventing Nausea and Vomiting Induced by Low-dose Carboplatin-based Chemotherapy	Anticancer Res 2017; 37: 1965-70.	Original Article
124	Hayashi Y, Shibata H, Kudo T, et al	薬剤部	Drug-induced pressure ulcers in a middle-aged patient with an early stage of Parkinson's disease.	Intern Med. 2017.	Original Article
125	Suzuki K, Miyake T, Okada H, et al	高次救命治療センター	Thyrototoxic and pheochromocytoma multisystem crisis: a case report.	Journal of Medical Case Reports. 2017; 11(1): 173.	Original Article
126	Okada H, Takemura G, Suzuki K, Oda et al	高次救命治療センター	Three-dimensional ultrastructure of capillary endothelial glycocalyx under normal and experimental endotoxemic conditions.	Critical Care. 2017; Volume 21, Issue 1: 261.	Original Article
127	Miyai M, Tomita H, Soeda A, et al	脳神経外科	Current trends in mouse models of glioblastoma.	J Neurooncol. 2017; 135: 23-432.	Review
128	Shirakami Y, Ohnishi M, Sakai H, et al	第1内科	Prevention of colorectal cancer by targeting obesity-related disorders and inflammation.	Int J Mol Sci 2017; 18. pii: E908.	Review
129	Morishige KI.	産科婦人科	Traditional herbal medicine, Rikkunshito, for chemotherapy-induced nausea and vomiting.	J Gynecol Oncol. 2017 28(5): 10.	Others
130	Kawashima M, Usui T, Okada H, et al	総合内科	TAFRO syndrome: 2 cases and review of the literature.	Mod Rheumatol. 2017; 27(6): 1093-1097.	Original Article

計130件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 委員会提出書類、予備審査、研究計画の判定、重篤な有害事象への対応等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 委員組織、所掌業務、会議、報告等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年30回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」について、研究計画書の記入方法について	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

岐阜大学医学部附属病院は、先進医療を提供し、地域医療の中核を担う能力を備えた医師を育成するため、2年間の初期研修を修了した医師を対象に、その分野での卓越した専門医の育成を行っている。

○優れた指導医によるきめ細かい指導体制
優れた知識と経験をもつ多数の指導医の下で質の高い研修を実施。
メジャーな診療科だけでなく大学病院ならではのマイナー科と呼ばれる診療科にも多数の指導医を配置。

○豊富な知識・経験を持つ専門医を育成
大学病院や関連病院で豊富な臨床経験を積み基礎的な力を養いながら専門医を取得でき、また、大学院へ進むことも可能で、希望者は基礎研究、臨床研究を行い、医学博士の取得を目指すことも可能。

○診療科の垣根を越えたローテーション
希望に応じて異なる診療科において臨床研修が可能であり、複数の専門医を取得することも可能。

○豊富な機材を利用したシミュレーション教育
岐阜大学医学部附属病院が所有している内視鏡手術トレーニングセンターのシミュレーターを利用したトレーニングを実施。

○研修例

- 1年目 岐阜大学病院
- 2～3年目 連携施設
- 4年目以降 専門医取得→各種領域専門医申請

2 研修の実績

研修医の人数	110人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
白木 亮	内科・消化器内科	医局長	22年	
川崎 雅規	内科・循環器内科	診療科長	30年	
諏訪 哲也	内科	医局長	24年	
下畑 享良	内科	診療科長	27年	
池田 貴英	内科	医局長	16年	
岩田 尚	外科・心臓血管外科	副科長	28年	
山口 和也	外科・消化器外科	医局長	30年	
早崎 容	産婦人科	外来医長	22年	
松本 和	整形外科	医局長	24年	
岩間 亨	脳神経外科	診療科長	34年	
澤田 明	眼科	講師	26年	
青木 光広	耳鼻咽喉科	診療科長	28年	
清島 真理子	皮膚科	診療科長	38年	
水谷 晃輔	泌尿器科	講師	16年	
深尾 琢	精神科	医局長	26年	
深尾 敏幸	小児科	診療科長	32年	
富松 英人	放射線科	講師	20年	

熊澤 昌彦	麻酔科	講師	20年
加藤 恵三	歯科	医局長	27年
吉田 隆浩	救急科	医局長	24年 年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ① 検査部セミナー（症例検討含む）
- ② 感染管理フォローアップ研修：看護部認定感染管理コース修了者対象フォローアップ研修
- ③ 褥瘡ケアフォローアップ研修：看護部認定褥瘡ケアコース修了者対象フォローアップ研修
- ④ がん看護フォローアップ研修：看護部認定がん看護コース修了者対象フォローアップ研修
- ⑤ がん看護ELNEC-J研修：所属部署でがん看護に関する役割モデルとなる看護師の育成
- ⑥ フィジカルアセスメント研修：フィジカルアセスメントの知識と技術を習得する
- ⑦ 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等）、診療用放射線照射装置に係る定期研修会
- ⑧ 装置更新にともなう新規医療機器安全研修会 X線ポータブル撮影装置
- ⑨ 平成29年度国公立大学病院医療技術関係職員研修
- ⑩ 平成29年度放射線治療品質管理士講習会

・研修の期間・実施回数

- ① 検査部セミナー 1～2回／月
- ② 感染管理フォローアップ研修：平成30年3月開催、1時間
- ③ 褥瘡ケアフォローアップ研修：平成30年2月開催、1時間
- ④ がん看護フォローアップ研修：平成29年9月～11月開催、全3回×1時間
- ⑤ がん看護ELNEC-J研修：平成29年8月～9月開催、全2回×8時間
- ⑥ フィジカルアセスメント研修：平成29年9月～1月開催、全4回×1.5時間
- ⑦ 2回／年

⑧ 更新装置使用開始前に1回（平成29年6月5日）

⑨ 平成29年10月2日～6日

⑩ 平成30年2月11日

・研修の参加人数

① 検査部セミナー 25～35名

② 感染管理フォローアップ研修：6名

③ 褥瘡ケアフォローアップ研修：13名

④ がん看護フォローアップ研修：7名

⑤ がん看護ELNEC-J研修：16名

⑥ フィジカルアセスメント研修：3名

⑦ 第1回（平成29年5月23, 24日）16名、第2回（平成29年12月4日）16名

⑧ 27名

⑨ 1名

⑩ 1名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

① 検査部セミナー（症例検討含む）

② リーダーのあり方と問題解決：リーダーシップ、コーチング、問題解決技法、自部署の業務改善と実践報告

③ リーダーナースとしての業務管理：組織における自身の位置づけと役割を理解し業務を遂行する上でリーダーナースとしての物品管理について必要な知識を習得する

④ 災害看護：大規模災害における大学病院や看護師の役割を学び、患者の安全、指示命令系統、情報伝達、治療について理解できる。シミュレーション研修

⑤ 管理者研修：1）倫理分析

2) 社会人基礎力の育て方

3) 経営管理

4) コンピテンシー

5) 新任副看護師長管理研修

⑥ 平成29年度医療放射線安全管理講習会（主催：医療放射線防護連絡協議会 後援：厚生労働省）

⑦ 原子力規制庁の放射線障害の防止に関する法令改正説明会（主催：原子力規制庁）

・研修の期間・実施回数

① 検査部セミナー 1～2回／月

② リーダーのあり方と問題解決：平成29年5月～平成30年1月開催、15.25時間

③ リーダーナースとしての業務管理：平成29年7月開催、講義1.5時間

④ 災害看護：平成29年7月開催、講義・演習6.5時間

⑤ 管理者研修：1) 倫理分析 平成29年5月～6月開催、講義・演習 1.5時間×2

2) 社会人基礎力の育て方 平成29年9月開催、講義1.5時間

3) 経営管理 平成29年11月開催、講義1時間

4) コンピテンシー 平成29年10月～平成30年1月開催、講義・演習1時間×4

5) 新任副看護師長管理研修 平成30年3月開催、講義1時間×4

⑥ 平成29年11月11日

⑦ 平成30年2月28日

・研修の参加人数

① 検査部セミナー 25～35名

② リーダーのあり方と問題解決：10名

③ リーダーナースとしての業務管理：6名

④ 災害看護：19名

⑤ 管理者研修：1) 倫理分析：38名

2) 社会人基礎力の育て方：65名

- 3) 経営管理：52名
- 4) コンピテンシー：27名
- 5) 新任副看護師長管理研修：9名

⑥ 1名

⑦ 2名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長	吉田 和弘
管理担当者氏名	事務部長	山口 昇
	総務課長	柘植 智司
	経営企画課長	阿部 幸治
	医事課長	太田 恵美子
	医療支援課長	福井 隆
	看護部長	廣瀬 泰子
	生体支援センター長	村上 啓雄
	放射線部長	松尾 政之
	高次救命治療センター長	小倉 真治
	薬剤部長	鈴木 昭夫

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規 則 第 二 十 二 条 の 三 第 二 項 に 掲 げ る 事 項	病院日誌	医事課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	手術部	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規 則 第 二 十 二 条 の 三 第 二 項 に 掲 げ る 事 項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部事務部臨床研究係	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課・医療支援課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携センター	
	掲 げ る 事 項	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			医療安全管理室	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			医療安全管理室	

2004年6月より電子カルテで運用していることから、診療情報は医療情報部のサーバー室に保管されています。電子カルテ稼働以前の紙媒体については、診療録は患者の最終受診日から起算して10年と定め、フィルム等諸記録については3年、医事課カルテ庫にて施錠保管しています。

法律の規定に定められた保存年数を「国立大学法人岐阜大学法人文書ファイル保存要領」に基づき保管している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	生体支援センター
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	生体支援センター
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	生体支援センター
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室 医療支援課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室 医療支援課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室 医療支援課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室 医療支援課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	生体支援センター
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	臨床倫理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総合企画部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長 山口 昇		
閲覧担当者氏名	医事課長 太田 恵美子		
閲覧の求めに応じる場所	医事課・医療支援課事務室内 カルテ閲覧室		
閲覧の手続の概要 閲覧しようとする者は、閲覧申込書を原則として、閲覧を希望する2週間前までに提出し、病院長の承認を得る。 病院長は、前項の申込みを適当と認めるときは、閲覧承認書を交付。 閲覧に関しては、閲覧担当者が立ち会う。ただし、閲覧担当者に事故があるとき又は閲覧する諸記録によっては、あらかじめ閲覧責任者が指名する者が立ち会う。 閲覧を承諾された者は、閲覧に立ち会う本学職員の指示に従い、万一従わない場合は、閲覧を中止する。 諸記録の貸出し、複写及び撮影は行わない。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療安全のための組織 3. 医療安全管理のための職員研修・教育 4. インシデント報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 5. 医療事故等の発生時の対応 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. 医療安全管理の推進 9. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年13回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理対策及び医療事故防止に関する重要事項を審議する。</p> <p>○医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。</p> <p>○医療安全管理のための職員研修に関すること。</p> <p>○医療事故及びインシデントに関する情報の収集並びに原因の究明のための調査及び分析に関すること。</p> <p>○分析の結果を活用した改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。</p> <p>○改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。</p> <p>○入院患者の死亡報告及び3b以上のインシデント報告の実施状況の確認並びに確認結果の病院長への報告に関すること。</p> <p>○前号の実施状況が不十分な場合における職員への研修及び指導に関すること。</p> <p>○医療安全マニュアルの作成に関すること。 など</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年32回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○第1回医療安全・感染対策合同研修会</p> <p>・ 特定機能病院の承認要件の見直し状況について ：医療安全管理責任者 村上 啓雄</p> <p>・ 医療安全「安全の基本とルール」 ：医療安全管理室 GRM 玉井小百合</p> <p>・ 医療安全「注意すべき薬品の取り扱いについて」 ：薬剤部 麻薬管理主任 小森 善文</p> <p>・ 感染対策「感染対策の基本」 ：生体支援センター 感染管理認定看護師 土屋 麻由美</p> <p>○第2回医療安全・感染対策合同研修会</p> <p>・ 特定機能病院の承認要件の見直し状況について ：医療安全管理責任者 村上 啓雄</p> <p>・ 医療安全「医療安全の基本ルール」 ：医療安全管理室 専従医師 鵜川 豊世武</p> <p>・ 感染対策「病院職員として求められる感染予防」 ：生体支援センター副センター長 馬場 尚志</p>	

- ・医療安全, 感染対策「安全と感染に関する薬のはなし」
: 薬剤部 主任薬剤師 丹羽 隆
- 新採用・中途採用職員研修(研修医・医師・看護師・技師など) (9回)
- 研修医研修(5回)
- 看護部研修(8回)
- 新任リスクマネージャー研修(1回)
- 業者向け研修(1回)
- 薬剤部研修(1回)
- 放射線部研修(1回)
- 栄養管理室研修(1回)
- 中心静脈カテーテル研修(医師主対象・1回)
- BLS研修(看護師対象・2回)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- 医療安全管理規定の改正
- 医療安全管理指針の改正
- 医療安全マニュアルの改訂
- インスリンブック改定
- ヨード造影CT, MRI検査問診票の改定
- 超緊急帝王切開時の連絡網作成
- アレルギー患者の食器の個別対応
- 心電図モニターのマニュアルの改訂
- プレセデックスの安全使用に関する取り決めの改訂
- 手術患者の麻薬の返却方法変更 等

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院感染対策に関する基本的な考え方 2. 病院感染対策の組織 3. 職員教育・研修に関する基本方針 4. 感染症発生状況の報告に関する基本方針 5. 病院感染発生時の対応に関する基本指針 6. 患者への情報提供と説明 7. 病院感染対策の推進 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院感染の発生状況、抗菌薬の使用状況について ○病院感染対策の検討および推進に関すること ○病院感染対策に係る職員研修の企画に関すること ○病院感染対策に係る啓蒙及び広報に関すること ○病院感染発生時の医療現場との連絡調整に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年23回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生体支援センターセミナー（全職員対象） <ul style="list-style-type: none"> ○第1回 細菌検査結果の見方および検体採取の方法 ：感染制御認定臨床微生物検査技師 太田 浩敏、中山 麻美 ○第2回 RST、RRS、エマジってどう違うの？ ：集中ケア認定看護師 佐藤 尚徳、救急看護認定看護師 辻 俊行、高次救命治療センター救急部門 名知 祥、RST部門 吉田 省造 ○第3回 周術期における低体温のリスクについて ：手術看護認定看護師 吉川 昌弥、皮膚排泄ケア認定看護師 松原 仁美、感染管理認定看護師 山本 昌代 ○第4回 最近、話題のロコモティブシンドロームと栄養 ：椋山女学園大学生生活科学部管理栄養学科 加藤 昌彦教授 ○第5回 褥瘡予防における身体にやさしいポジショニング ：飯田市立病院地域医療部訪問看護ステーション 近藤 龍雄理学療法士 ○第6回 多職種で取り組む口腔ケア・オーラルマネジメント ：兵庫医科大学病院歯科口腔外科 岸本 裕充主任教授 ○第7回 治療期のがん患者の栄養管理について ：摂食嚥下認定看護師 古市 ふみよ、皮膚排泄ケア認定看護師 石川 りえ、集中ケア認定看護師 佐藤 尚徳 2) 医療安全・感染対策合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ○第1回医療安全・感染対策合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定機能病院の承認要件の見直し状況について ：医療安全管理責任者 村上 啓雄 ・ 医療安全「安全の基本とルール」 ：医療安全管理室 GRM 玉井小百合 ・ 医療安全「注意すべき薬品の取り扱いについて」 ：薬剤部 麻薬管理主任 小森 善文 ・ 感染対策「感染対策の基本」 ：生体支援センター 感染管理認定看護師 土屋 麻由美 ○第2回医療安全・感染対策合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定機能病院の承認要件の見直し状況について ：医療安全管理責任者 村上 啓雄 	

- ・医療安全「医療安全の基本ルール」
：医療安全管理室 専従医師 鶴川 豊世武
- ・感染対策「病院職員として求められる感染予防」
：生体支援センター副センター長 馬場 尚志
- ・医療安全、感染対策「安全と感染に関する薬のはなし」
：薬剤部 主任薬剤師 丹羽 隆

3) 新入職員研修（全新入職員対象・2回）

- 手指衛生、個人防護具装着の方法と実際：生体支援センター 土屋 麻由美
- 経路別予防策、環境について：生体支援センター 土屋 麻由美

4) 臨床工学士研修

- 標準予防策：生体支援センター 土屋 麻由美

5) 育児休業からの職場復帰プログラム

- 感染対策について：生体支援センター 土屋麻由美

6) 看護補助者研修（2回）

- 業務における感染対策：生体支援センター 土屋麻由美

7) 看護師研修

- 「感染防止技術」（レベルⅡ研修）：生体支援センター 土屋麻由美

8) 放射線技師研修

- 標準予防策、経路別予防策、業務上の注意点：生体支援センター 土屋麻由美

9) 清掃業者研修（2回）

- 業務上の注意点、インフルエンザとノロウイルス：生体支援センター 土屋麻由美

10) 給食業者研修

- インフルエンザとノロウイルス：生体支援センター 土屋麻由美

11) 医療事務業者研修（3回）

- インフルエンザとノロウイルス：生体支援センター 土屋麻由美

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

○抗菌薬の適正使用のための薬剤師による抗菌薬投与患者の評価および介入

○手指衛生遵守向上に関する取り組み（速乾性擦式消毒剤の使用量のモニタリング及び直接観察（年2回）等）

○アウトブレイクが疑われた場合は、各部署へ情報提供及び指導の徹底

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2017年4月5日 新入職員研修会 2017年4月18日 新規採用看護師研修会 2018年2月1日～2月8日 医療安全・感染対策研修会</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>業務手順書は電子カルテのオンラインマニュアル内に掲載して、常に業務手順が確認できるようにしており、必要に応じて随時改訂を行っている。また、業務手順書に準拠したチェックリストを作成して、年2回(1月、6月)院内全部署を対象として業務の実施状況を評価している。業務手順書が遵守できていない状況が認められれば、業務の見直し、改善を行うよう指導している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：</p> <p>未承認新規医薬品評価委員会にて承認のうえ、2017年12月にHIV感染症の妊婦にレトロビル注射薬の使用と同新生児にレトロビルシロップを使用した。また、2018年1月に網膜内境界膜の染色にブリアントブルーGを使用した。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年50回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 	
<ul style="list-style-type: none"> ○新規購入医療機器（16回） ○保育器（3回） ○人工呼吸器（11回） ○血液浄化機器（5回） ○高エネルギー放射線発生装置（2回） ○人工心肺装置及び補助循環装置（3回） ○除細動装置及び自動体外式除細動器（5回） ○診療用放射線照射装置（3回） ○インフュージョンポンプ（1回） ○パルスオキシメーター（1回） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定（有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 	
<ul style="list-style-type: none"> ○人工呼吸器、人工心肺装置、除細動装置、十二誘導心電計、血液浄化装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ、超音波ネブライザーは使用毎の保守点検を医療機器センターで実施 ○血液浄化部の多人数用血液透析装置は2年に1度業者による点検実施 ○放射線装置は期限毎に業者と保守点検の契約を結び実施（機器により、半年から2年毎） 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	
<ul style="list-style-type: none"> ○人工呼吸器について ：医療機器センター技士による人工呼吸器管理中患者のラウンドを週2回実施 呼吸療法支援チームの活動として、病棟の人工呼吸器管理患者のラウンドを週2回実施 会議では人工呼吸器関連のインシデント報告や情報を検討し院内に周知 ○医療機器の添付文書等の収集、PMDAメディナビへの登録を実施し情報収集 ○医療機器に関する院内の安全情報をメーカーやMEセンターから医療安全管理室に集めており、必要に応じて、院内全体または該当部署に「安全情報」「医療安全トピックス」の配付などにより周知 ○医療機器の不具合、医療機器に関連した健康被害が発生した際も医療安全管理室に報告 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理の統括責任者として医療安全管理責任者を置き、医療安全を担当する副病院長をもって充て、医療安全管理室長、院内感染対策安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理責任者並びに医療安全管理委員会を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>厚生労働省、PMDA、製薬会社、書籍、インターネット等より、常に最新の医薬品情報を収集している。収集した情報は評価・加工して、DI ニュースにより医療スタッフ（医師、看護師等）へ情報を発信すると共に、病棟薬剤師が直接情報提供を行っている（2017年度は47件のDI ニュースを発信している）。院内ホームページや電子カルテ医薬品情報システム（JUSDI）では各種の医薬品情報を配信するとともに、全ての医療スタッフが最新の添付文書等を閲覧できる環境を整備している。DI ニュースの周知状況の確認として、医療安全・感染対策研修会にて全職員を対象とした確認アンケートを行っている。また、2018年度からは全職員を対象に周知確認表に基づく閲覧確認を開始した。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>1. 未承認薬の使用</p> <p>院内で使用されている未承認薬としては、院内製剤（クラスI：12品目、クラスII：11品目）および治験薬がある。院内製剤は、倫理審査委員会の審査・承認後に運用を開始している。治験薬は治験審査委員会の審査・承認後に使用している。なお、個人輸入等による未承認薬については、未承認新規医薬品評価委員会を設置しており、2017年12月にHIV感染症の妊婦にレトロビル注射薬の使用と同新生児にレトロビルシロップを使用を、2018年1月に網膜内境界膜の染色にブリリアントブルーGを使用を承認した。</p> <p>2. 禁忌・適応外薬の使用</p> <p>禁忌・適応外薬の使用は原則として認めていない。やむを得ず使用する場合は臨床倫理室の審査・承認が必要である。申請方法としては、(1) 日常診療の中で科学的根拠があり比較的安全性の高い薬剤は“疾患ごと”に審査・承認しており、(2) 治療抵抗性があり生命の危険が伴う場合に延命等の目的で適応外使用する場合（主に抗がん剤や免疫抑制剤）は“症例ごと”に「生命倫理を伴う緊急医療行為実施協議会」にて審査・承認後に使用している。</p> <p>なお、これまでに疾患ごとの適応外使用は67件が審査・承認されており、症例ごとの適応外使用は2016年度は46件が審査・承認されている。事例については治療経過や効果判定も含め薬剤部のデータベースに記録している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤主任 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：同意書に陪席者のサインを記入している。 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ・ 診療録の保管及び管理に関すること。 ・ 診療録の内容点検及び記載指導に関すること。 ・ 診療録管理室が管理する診療録の閲覧に関すること。 ・ その他診療録の管理に関すること。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（１１）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（５）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名 うち看護師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（３）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理部門では以下の業務を実施している。 ○事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 ○患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 ○事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 ○医療の安全に係る啓発及び広報に関すること。 ○医療の安全確保のため、医療現場との連絡調整に関すること。 ○医療の安全確保に係る職員研修の企画立案に関すること。 ○インシデントに関する情報の収集及び分析、関係資料の作成に関すること。 ○医療事故再発防止対策等の立案と周知徹底並びに改善に関すること。 ○医療の安全確保のための院内の体制整備に関すること。 ○死亡退院事例の検証に関すること。 ○医療安全管理委員会に係る事務に関すること。 ○医療の安全確保に資する診療状況の把握及び職員の医療安全の認識状況の確認に関すること。 ○その他医療の安全対策及び医療の質の向上に関すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。 ○医療安全に資する診療内容のモニタリングの具体例 <ul style="list-style-type: none"> 3項目（Ⅱ度以上の褥瘡の新規発生件数、24時間以内の再手術件数、術後の肺塞栓発生件数）についてモニタリングを実施し、毎月の委員会にて報告している。 	

○従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例
全職員対象の医療安全研修会において小テストを実施し、医療安全の認識についてモニタリングを実施している。また、院内ラウンドにおいて、医療安全に関するトピックスについての周知状況のチェックを実施している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

診療科から申請書が臨床倫理室に提出され、高難度新規医療技術導入審査部門で確認後、その都度病院長が決定した委員による、高難度新規医療技術等評価委員会に諮り、適否への意見を受け、最終的に部門長及び臨床倫理室長が適否を決定し、診療科へ通知する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

診療科から申請書が臨床倫理室に提出され、未承認新規医薬品導入審査部門で確認後、その都度病院長が決定した委員による、高難度新規医療技術等評価委員会に諮り、適否への意見を受け、最終的に部門長及び臨床倫理室長が適否を決定し、診療科へ通知する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年274件
 - ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年26件
 - ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
- 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。
○医療安全管理のための職員研修に関すること。
○医療事故及びインシデントに関する情報の収集並びに原因の究明のための調査及び分析に関すること。
○前号の分析の結果を活用した改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。
○前号の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。
○入院患者の死亡報告及び3b以上のインシデント報告の実施状況の確認に関すること。
○前号の実施状況が不十分な場合における職員への研修及び指導に関すること。
○医療安全マニュアルの作成に関すること。
○その他医療事故防止に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名： 広島大学病院 ）・無）
 - ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名： 旭川医科大学病院 ）・無）
 - ・技術的助言の実施状況
- 広島大学病院往訪
- ・医師からのインシデント報告件数が少ない旨指摘。
 - ・医療安全マニュアルの紙面配備を提案。
 - ・読影レポート等について、依頼医の見落とし見逃し防止のチェック機能及び患者への紙面配布について印刷ログ機能の整備を提案。
 - ・教員組織で構成される「医療情報部門」の整備を提案。
 - ・電子カルテシステムの更新を提案。
 - ・適応外使用の医薬品を発見した際に必要に応じ使用を止める仕組みが構築されていない旨指摘。
 - ・監査委員会について、開催に向けた助言を実施。
- 旭川医科大学病院来訪
- ・病床数と病院の特殊性からインシデントレポート報告数が少ないことを指摘。
 - ・読影レポート等の確認に関する安全対策について、読影医一人あたりの専有面積が狭い旨指摘。また看護職のCT以外の放射線部門への配置拡大について提案。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

病院入口近くの医療連携センター・がんセンター内に相談窓口を設置し、看護相談、医療福祉相談、がん相談、女性専門相談、セカンドオピニオン、要望・苦情等相談を行っており、看護師、メディエーター、MSW、事務職員により対応しており、医療安全に関する相談は医療安全管理室に連絡し対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

全職員を対象に実施されている医療安全研修会に追加された必須項目を盛り込んで平成29年度から実施した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

・管理者及び医療安全管理責任者は日本医療機能評価構が実施する特定機能病院管理者研修に参加した。なお、今年度着任した医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者についても同様に参加する予定である。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <p>平成30年6月1日より以前に新しい管理者を選任しており、次期選任までに相当の期間があるため、未設置である。平成31年7月ごろに制定予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・ 公表の方法

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> 一 本病院の運営方針に関する事。 二 本病院の中期目標、中期計画及び年度計画に関する事。 三 本病院の予算及び決算に関する事。 四 本病院の組織に関する事。 五 その他本病院の運営に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> 翌月の科長会議、医局長合同会議での議事録の配布、 学内ホームページ等への議事録の掲載 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> 岐阜大学ホームページの外部からも閲覧可能な規則集に掲載されている ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉田 和弘	○	医師	病院長
村上 啓雄		医師	副病院長
土井 潔		医師	副病院長
森田 浩之		医師	副病院長
森重 健一郎		医師	副病院長
廣瀬 泰子		看護師	副病院長
清水 雅仁		医師	病院長補佐
松尾 政之		医師	病院長補佐
清島 真理子		医師	病院長補佐
山口 昇		事務職員	事務部長
下畑 享良		医師	科長
岩田 尚		医師	科長
秋山 治彦		医師	科長
岩間 亨		医師	科長
山本 哲也		医師	科長
青木 光弘		医師	科長
加藤 久和		医師	科長
古家 琢也		医師	科長
塩入 俊樹		医師	科長

深尾 敏幸		医師	科長
飯田 宏樹		医師	科長
柴田 敏之		医師	科長
伊藤 弘康		医師	部長
原 明		医師	部長
紀ノ定 保臣		医師	部長
荒木 寛司		医師	部長
小倉 真治		医師	センター長
古井 辰郎		医師	センター長
鈴木 昭夫		薬剤師	部長
牛越 博昭		医師	室長
塚田 敬義		教育職員	室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
岐阜大学ホームページの外部からも閲覧可能な規則集に掲載されている
- ・ 規程の主な内容
 - 1 本病院に、病院長を置く。
 - 2 病院長は、院務をつかさどり、管理運営の任に当たる。
 - 3 病院長は、本病院の予算を編成し、その予算の適切な執行に責任を持つ。
 - 4 病院長は、病院で行われる診療について、その実施状況の報告を求め、又は自ら調査し、必要に応じて是正又は停止を命ずることができる。
 - 5 病院長は、次条に定める副病院長が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、副病院長の解任について学長に上申することができる。
 - 一 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
 - 二 職務上の義務違反があるとき。
 - 三 その他副病院長たるに適しないと認めるとき。
 - 6 病院長は、第4条の病院長補佐、第4条の2の病院長特別補佐、第6条の科長、第9条の部長及びセンター長、第10条の高度救命救急センター長又は第12条の薬剤部長（以下「病院長補佐等」という。）が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、病院長補佐等を解任することができる。
 - 一 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
 - 二 職務上の義務違反があるとき。
 - 三 その他病院長補佐等たるに適しないと認めるとき。
 - 7 病院長は、病院長補佐等を解任したときは、その理由を明らかにしなければならない。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長
病院長の職務を補佐し、及び病院長の命を受け、職務を分担（経営、医療安全・危機管理、研究、教育、看護等）する
 - 病院長補佐
病院長及び副病院長を補佐し、並びに病院長の命を受け、特定の業務を掌理（地域連携、機能評価、働き方改革等）する
 - 病院長特別補佐
病院長及び副病院長を補佐し、並びに病院長の命を受け、特定の業務（経営）を掌理する
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
日本医療機能評価機構の主催する特定機能病院管理者研修へ病院長、医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理責任者が参加する。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 外部監査委員会が年2回、医療安全管理の目標達成状況や、院内のインシデントや死亡退院、死産事例等の報告を受け、特定機能病院としての医療安全業務の実施状況を監査する</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法： 大学ホームページの監査にかかる情報ページ及び、附属病院ホームページへ掲載している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中西 敏夫	弁護士法人森川・鈴木法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
千田 隆夫	岐阜大学監査室		本学監査室長	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	3
富田 栄一	岐阜市民病院	○	医療に係る安全管理に識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
松野 正仁	(一社) 岐阜市医師会		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
王 志剛	岐阜大学		学長が必要と認める者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監査室及び監事による定期、臨時の監査により、法令順守状況を監査するとともに会計に関するところについては、会計監査、経営上の重要な事項については役員懇談会への報告を行うことにより法令順守の確保を担保している。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)

・ 公表の方法

監査室規程が、大学ホームページの監査にかかる情報のページに掲載されている。

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会により、病院の予算執行状況等、管理運営に関する重要事項について監督されている ・ 会議体の実施状況（ 年20回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年16回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法 岐阜大学ホームページの外部からも閲覧可能な規則集に掲載されている 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：役員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
森脇 久隆	学長	○	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
福井 博一	理事(企画・評価・基金担当) ・ 副学長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
江馬 諭	理事(教学・附属学校担当) ・ 副学長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
野々村 修一	理事(学術研究・情報担当) ・ 副学長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
鈴木 文昭	理事(国際・広報担当) ・ 副学長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
大藤 生气	理事(総務・財務担当) ・ 副学長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 メール周知及び専用のホームページで周知を行っている。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構の中間評価（平成30年9月自己評価回答）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 広報誌「うぶね」や、ホームページ等で院内の情報を積極的に配信している。また、メディア懇談会を開催し、随時アピールしたい情報に関して報道関係者へプレスリリースも行っている。 平成29年1月には各診療科の高度な医療技術等を「岐阜大学医学部附属病院 ここがすごい」という冊子にして出版し、一般の方へ情報提供している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 医療連携センター、医療安全管理室、医事課、医療支援課の医師、看護師、ソーシャルワーカー、メディエーター、事務職員から成る患者支援カンファレンスを週1回程度開催し、患者等の相談内容について情報共有を行っている。	